つなごう。驚きを。幸せを。

NTT docomo

地球環境×ドコモ

-よりよい未来へつなぐ取組み-

2025年4月22日

株式会社NTTドコモ 九州支社 広報室

目次

01 はじめに

02 環境への取り組み

03 脱炭素社会の実現に向けて

01 はじめに

つなごう。驚きを。幸せを。

NTT docomo

会社名

株式会社NTTドコモ

営業開始日

1992年7月1日

グループ従業員数

8,847名 （当社グループ 46,506名） 2023.3.31現在

企業理念

私たちは「新しいコミュニケーション文化の世界の創造」に向けて、個人の能力を最大限に生かし、
お客様に心から満足していただける、よりパーソナルなコミュニケーションの確立をめざします

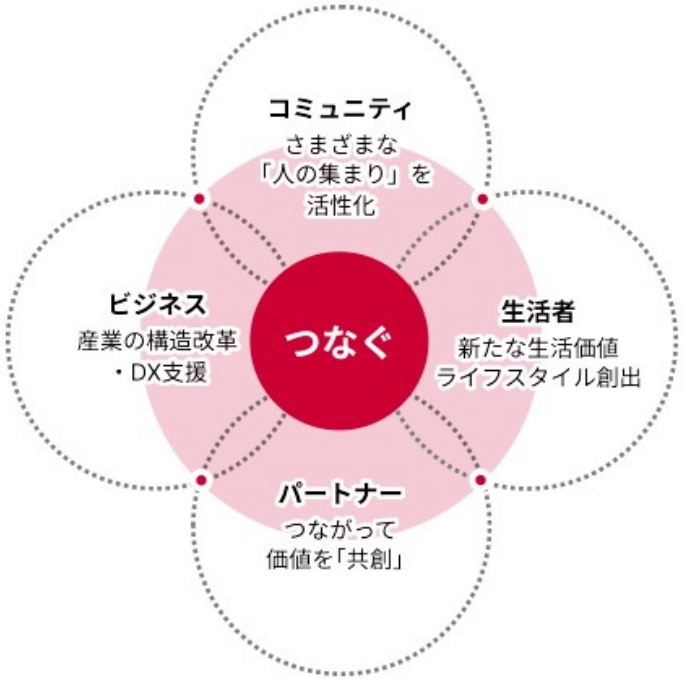
ブランドスローガン

「つなごう。驚きを。幸せを。」

NTTドコモグループ｜サステナビリティの取組み

新 ドコモグループビジョン　2024.10～

テクノロジーと人間力で新しいつながりを生み、
心躍る価値創造で、世界を豊かに、幸せに。



サステナビリティ方針

ドコモはこれまでもこれからも社会的責任を果たし世界をよりよく変えていきます。あらゆるステークホルダーのみなさまとともに力をあわせ事業を通じて様々な社会課題の解決、新しい価値の提供に取り組み、誰一人取り残さないサステナブルな社会の創造に貢献します。

NTTドコモグループ 中期戦略

カスタマーファーストを追求し
お客さまの期待を上回る新たな価値を提供

事業運営の**デジタル化**と**データ活用**を加速し
CXの向上と事業構造改革を実現

国内で培ったサービス・ソリューション・
テクノロジーを活用し、**グローバル**に事業を展開

事業運営とESGを一体的に推進し
サステナブルな社会の創造に貢献

×

One Step Ahead

後追いでなく、先を予測して進み、
ポジティブ思考でチャレンジ

Openness

お客様やパートナーの皆さまとともに
イノベーションを起す

Trust

有言実行と公正な取引によりお客様・
パートナーの皆さまの信頼を得る

02

環境への取組み

ドコモグループが環境問題に取組む背景①

基地局

端末

店舗

環境に及ぼすリスク

- ●基地局や店舗運営における電力消費
- ●基地局周辺の生態系への影響
- ●端末製造に関わる資源確保
- ●使用後の端末廃棄

など

携帯電話サービスの提供には、多くの電力を要しCO_2を排出

ドコモグループの年間電力使用量

39.5億kWh（2023年度）≒ 約**92万世帯** 年間使用量相当※1

ドコモグループの年間CO_2排出量

114.5万t-CO_2（2023年度）≒ 約**83万台** 年間排出量相当※2

CO_2排出量の95.5%は電力利用によるもの

※1 環境省「令和２年度家庭部門のCO_2排出実態統計調査資料編（確報値）」より、1世帯あたりの平均電気使用量を4258kWhとして計算
※2 国土交通省データ(2020年度)より、自家用乗用車年間1.37t-CO2排出として計算

Green Action Plan

項目	指標	目標（2030年度）
脱炭素社会の実現	ネットゼロ（Scope1,2,3）	ネットゼロ（2040年度）
	カーボンニュートラル	カーボンニュートラル
	一般車両のEV化	100％
	通信事業の通信量当たりの電力効率	10倍以上（2013年度比）
資源循環型社会の実現	廃棄物のリサイクル率	99％
生物多様性・生態系の保全	生態系を保全するための活動の推進	生態系保全活動の実施

one for earth
眠っているケータイを未来につなぐ

ドコモケータイリサイクル

全国のドコモショップ／d gardenにて、使用していない携帯電話を無料で回収

携帯電話回収

●2023年度累計回収台数（1998年より）

1億 2,794万台

●再生された主な資源（2023年度）

- 銅　24,172kg
- 金　32kg
- 銀　111kg
- パラジウム　1kg

中古端末の販売（ドコモ認定リユース品）

docomo Certified
ドコモが選んだ、リユース品。

製品・梱包材の環境配慮素材活用

環境配慮スマートフォン
（arrows N F-51C）

アクセサリ類
（docomo select）

100%紙製バッグ

生物多様性・生態系の保全

ドコモの森活動

- 全国各地で森を借りて森林整備
- ドコモ泉南堀河の森（大阪府）が環境省の自然共生サイトに認定（2024.2月）

環境教育

- スマートフォンを用いた生物調査
- 専門家を招いた里山環境観察　など

IoTによるスマート林業

- ドローンを使った森林整備活動
- 通信システム搬載の自動草刈機

ICTを活用したサンゴ生態調査

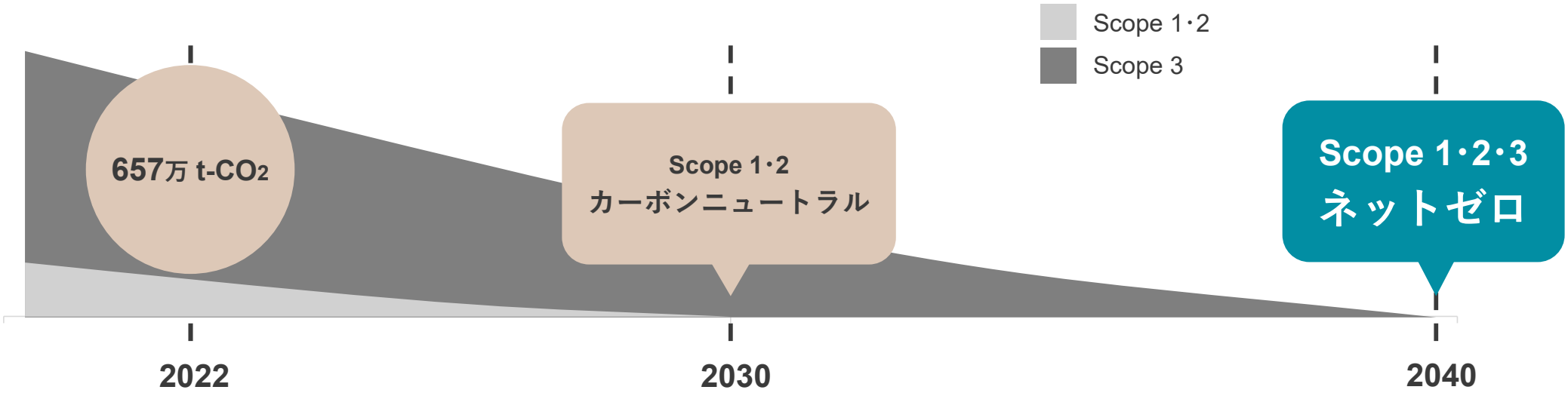
- 沖縄科学技術大学院大学の「OISTサンゴプロジェクト」に参画

ドコモグループは2040年ネットゼロへ

2023年11月、ドコモグループは温室効果ガス排出削減目標をサプライチェーン全体に拡大し、
2040年ネットゼロを発表しました

自社 (Scope1･2)	サプライチェーン (Scope1･2･3)	お客さま･パートナー企業 とともに
2030年 カーボンニュートラル	2040年 ネットゼロ	お客さま･パートナー企業と ともに社会の脱炭素へ貢献

2040年 ネットゼロ



取組み例

自社 (Scope1・2)	• ネットワークの省電力化 • 再生可能エネルギーの導入 • IOWNなどのイノベーション開発 • グリーン5G
サプライチェーン (Scope1・2・3)	• ドコモショップのグリーン電力化 • 温室効果ガス排出削減を進めるサプライヤからの導入推進 • 環境配慮型スマートフォンの販売 • 超省エネ型データセンターサービスの展開（Green Nexcenter™）
お客さま・パートナー企業とともに	• 日常生活の行動見える化（カボニューレコード、Green Program for Employee™） • 自分ごと化できるサービスの提供（ポイント投資、dカード、ドコモ・バイクシェア、ドコモでんき Green） • ドコモショップでの環境配慮貢献（ジモティーすくすくバトン、フクウロ） • パートナー企業とのJ-クレジット創出

自社 取組み例 (Scope1･2)

ネットワークの省電力化

- 基地局に「スリープ機能」を導入（電力30%削減）
- 「グリーン基地局」の推進

再生可能エネルギーの導入

- オフサイトPPA導入、グリーン電力化（2022年）
- 全事業活動の電力をグリーン化（2030年目標）

IOWN
Innovative Optical and Wireless Network

IOWNなどのイノベーション開発

- 光電融合技術等導入による、通信の高速化と省電力化（2030年までに）

再生可能エネルギーである太陽光発電や、電力を有効に活用する リチウムイオン電池を搭載した“環境にやさしい”基地局

- ✓ 全国305局（2024年９月末時点）
- ✓ 太陽光パネルで、必要な電力の2～3割をまかなう
- ✓ 蓄電池により、災害時/停電時にも稼働可

北海道胆振東部地震（2018年9月）において、29時間電源を維持し通信を止めることなく運用

サプライチェーン 取組み例 (Scope3)

ドコモショップのグリーン電力化

- 2030年度までに全店舗のグリーン電力化を推進

温室効果ガス排出削減を進めるサプライヤ

- 環境に配慮したサプライヤと製品の導入を推進
- 「CO2MOS®」等を使用してGHG排出量の可視化と分析をサポート

環境配慮型スマートフォンの販売

- カボニューレコード連携で、購入による環境貢献を見える化

お客さま・パートナー企業との取組み例

自分ごと化できるサービスの提供

- 「ドコモ・バイクシェア」、「ポイント投資」のESG投資などを提供

ドコモショップでの環境配慮貢献

- 不要になった衣類等をドコモショップでお預かりし、リユースを推進

パートナー企業とのクレジット創出事業

- 森林由来や水田でのメタンガス削減によるＪ-クレジットの創出

03

脱炭素社会の実現に向けて

ドコモグループのアセット

豊富な
ICTソリューション

9,600万以上の
大きな顧客基盤

全国約2,300の
ドコモショップ

全国で活躍する
ドコモグループ社員

×

企業のみなさまのアセット・強み

脱炭素社会の実現を加速させたい

簡単な設定と操作によりGHG排出量を算定可能

GHG排出量削減への取組みを業務負荷を上げることなく簡単に始められる

Scope1-3 排出量分析

製品別排出量算定

削減シミュレーション

サプライヤー連携

タスク管理

全国有志1,000人が参画するボトムアップの社内活動

・社内浸透施策として2022年より活動スタート

・自発的な取組みを奨励、ボトムアップでの社内機運づくり

・今後は、パートナー企業様との共同施策や社会的な活動も視野

つなごう。驚きを。幸せを。
ご清聴ありがとうございました